



# アソシオン通信

シーズン 2

日付: 2026 年 1 月 15 日 no.41

発行者: 田邊紘起

¡Hola a todos! ¿Cómo están?

¡Feliz año nuevo (フェリス アニョ ヌエボ) !

あけましておめでとうございます。先日は無事に交流会ができてよかったです。 「パラグアイの年末年始」 の情報を直接伝えることができて安心しました。

ところで、みなさんは 2026 年をどんな年にしたいですか？ 3 学期は学年のまとめや次の学年の準備で、あっという間に過ぎてしまうので、一日一日を大切にしていきましょうね。

今回のアスンシオン通信は、交流会の時にお話しした 「パラグアイの年末年始」 のおさらいとその続きを伝えします。

## クリスマスイブは夜から…

クリスマスイブの夜、あちこちから無数の花火が上がります。 11 時半頃から、日付が変わるので待ちきれない人たちがバンバンと花火を上げ始めます。夜中の 0 時を迎えると、堰を切ったように街のあちらこちらから一斉に花火が上がります（パラグアイでは打ち上げ花火も手持ち花火と同じように個人で買えるようです）。 12 時半を過ぎる頃まで花火はやむことなく、バババババ…と光と音が響き渡り、とってもにぎやかです。

12 月 25 日クリスマスの朝は家族でゆっくり過ごしながら、子供たちに「パラシュートで降りてくるサンタ」からのプレゼントが届きます。この日は街のお店やレストランも閉まっていて、

街は眠っているように静かでした。外に出てみると人通りはほとんどなく、見回りをして歩いている警察官ばかりが目立ちました。



おめでたい日にあちらこちらから花火がドドーン＝自宅より [12月25日]

## アシンシオンの年越しは…

日本の大みそかは家族で年越しそばを食べたりしますが、こちらでは友達といっしょに踊ったりご飯を食べたりというパーティーをしながら過ごす人が多いようです。また、スペインから入ってきた年越し文化で、ブドウを12粒食べるというのがあって、「年越しそば」ならぬ「年越しブドウ」というのもあります。新年を迎えるカウントダウンに合わせて、くる年の幸せや願いごとを考えながら12粒のブドウを一息に食べるそうです。ブドウで作ったワインをよく飲むヨーロッパらしい文化で、パラグアイでもやっている家庭がたくさんあるそうです。ただ、アジア系の移民など、元々ブドウを食べる習慣がない家庭もあるそうです。全体でパラグアイをみると、静かに新年を迎えて初詣にいく日本と違い、パーティーをしてにぎやかに新年を迎えるというところが大きな違いだと思います。

## Reyes magos(レジェス マゴス)

1月6日に「レジェス マゴス」というイベントがあります。キリストが生まれたことを祝う宗教的な行事で、クリスマスと同じように、「レジェス マゴス」というラクダに乗った3人の賢者から子供たちにプレゼントがもらえるそうです。クリスマスと同様に、1月5日までにレジェス マゴスに手紙を書いて送ります。スーパーやおもちゃ屋さんでは「クリスマスフェア」の次はすぐ「レジェス マゴスフェア」と続き、おもちゃ等の充実した

プレゼントコーナーが設けられます。また、街のあちこちに「レジエス マゴス」のオブジェが設置されます。私たちはパラグアイに来るまでこのことを全く知らなかつたので、初めて見たときは「何のオブジェ?」と思っていました。





どのオブジェも赤ちゃん（キリスト）を囲んでいます=アスンシオン [1月3日]

そして6日は、ラクダに乗ってやってきた3人の賢者さんからのプレゼントをもらって、輪の形をした大きなパンを食べ、家族でゆっくり過ごしてお祝いするのだそうです。



レジェス マゴス用のカラフルなパン。このまま飾りたくなるほどきれい！=s6

ただし、いい子にしていないとプレゼントではなく黒い炭が届くのだとか。プレゼントが炭だったら残念ですよね。しかし本当は炭のような形のおいしいお菓子らしいです。スペイン語を話す地域の人にとっては、クリスマス以上にレジェス マゴスも大きなお祝い行事のようです。ただ、これも家庭によっては全くしな

いところもあるみたいで、プレゼントが届くかどうかはその家庭それぞれだそうです。国が変わると文化や習慣がいろいろ違っていて興味深いですね。またパラグアイと日本のいろいろなことを比べてみたいと思います。

## タイトル写真について

夏の空。12月のパラグアイは午後8時くらいから暗くなり始め、8時30分くらいに写真のようなきれいな夕やけが見られます。セミがシーシーなき、いかにも「夏」という感じです。

### スペイン語・グラニー語ひとこと講座

No te preocupes : 心配いらないよ

(ノー テ プレオクペス)

困ったり間違えたりした人をはげます時、このように声をかけます。言った人も言われた人も温かい気持ちになります。

## 次回について

次回はパラグアイを支えている大きな施設について紹介します。  
お楽しみに！ Chao chao ! Hasta la próxima vez!